

## 人面付分銅形土製品について

### 1、はじめに

今回の調査では、分銅形土製品が計3点出土している。当遺跡ではこれまでに15個体が出土しており、香川県下においては善通寺市周辺からの出土数が目立って多いことは従来から指摘されてきた（笹川 1995）。特に注目されるのは今回出土した資料のうち1点に人面の表現がされていることが資料整理の段階で明らかになったことである。この資料は溝SD005黒褐色土層中より出土した。表面に櫛状工具により眼の表現が施され、中央付近には粘土の剥離痕が認められることと、剥離した部分に刺突文が一個あることから鼻の表現があったと考えられる。香川県下で人面付分銅形土製品が出土したのは高松市太田下・須川遺跡、三豊郡詫間町紫雲山遺跡に次いで3例目である。ここでは、西日本出土の人面付分銅形土製品を概観し、これまであまり語られることのなかった香川県下の地域色を抽出することを試みたい。

### 2、人面付分銅形土製品の分布と消長

まず、本稿で用いる「人面付分銅形土製品」という語の定義について述べておきたい。そもそも、分銅形土製品という遺物は発見当初より、弥生時代における人の形代として認識され研究が開始されている。故に上頰半部にしばしば見られる櫛原体による刺突文や直線文は、眉を抽象化したものと考えられ縄文時代土偶との関連から議論されてきた。しかし、このような一群とは趣を異にする資料が広い範囲で分布していることが資料数の増加に伴って認知されるに至った。つまり、粘土紐を貼り付けて眉や鼻を表現したり、刺突文により目、鼻、口を表現する資料もまた一群として認定可能な数量の存在が予想されたのである。この一群についてここでは「人面付分銅形土製品」と呼び分布と消長を概観する。

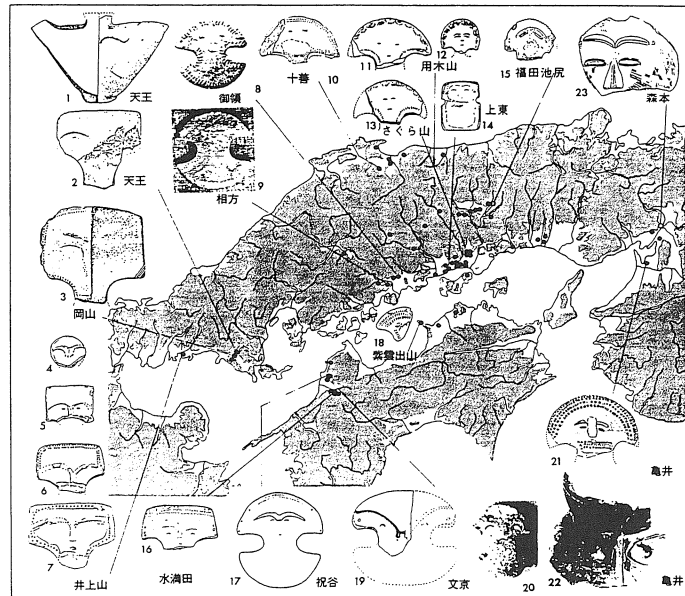
管見に触れた人面付分銅形土製品は、31遺跡49個体ある<sup>1)</sup>。大阪府・兵庫・岡山・広島・山口・鳥取・島根・香川・愛媛各県は分銅形土製品の分布圏中で、いずれの県からも人面付分銅形土製品が出土しているが、分布圏の外縁である福岡県、奈良県、京都府、高知県に事例がない。出現の時期は弥生時代中期中葉段階から後期後葉段階までみられる。出土遺構としては住居跡、土坑、溝などから出土しているが、中でも住居跡からの出土が目立って多い。つまり、分銅形土製品が盛行する中期中葉段階に突如として現れ、後期まで継続して存在していることになり、分銅形土製品の消滅する時期までは人面付のものも僅かであるが継続しているということになるだろう。

### 3、地域性と系譜

次に人面付分銅形土製品の地域性と系譜について簡単にコメントしてみたい。

これまで指摘されてきたように、分銅形土製品には比較的明確な地域差が認められる（谷若 1989）。人面付分銅形土製品は弥生時代中期中葉段階に山口・愛媛県で突如として出現し、ほぼ同時期とされる岡山県用木山遺跡例は顔面の表現方法が全く異なり、人面付分銅形土製品は出現当初から地域差が認められると考えられる。山口県及び愛媛県出土資料は粘土紐を貼り付けて眉と鼻を表現し、表情も柔和なものが多い。小地域性といえるかどうか断定できないが、山口県出土のものには目の表現がほとんど施されないが、愛媛県下の資料には目と口を表現しようという意識が強いようである。広島県下の資料には粘土紐によって眉を表現するものが認められず表情も硬い。山陰の資料には鳥取県倉吉市阿弥陀寺遺跡出土資料のように、粘土紐を貼り付けて鼻を表現するものもある。倉吉市後中尾遺跡例と島根県安来市十善遺跡例とに共通しているのは、刺突によって施された目の位置が側辺部に近くあたかも、額が狭くなったかのような状態を呈する点であろう。

近年、弥生時代前期後葉～中期前葉段階の分銅形土製品の資料が瀬戸内で充実してきつつある。香川県善通寺市龍川五条遺跡例や愛媛県今治市阿方遺跡例などがそうである。この段階の分銅形土製品の顔面表現は立体的に



人面付分銅形土製品の分布（東1982より）

No.	遺跡名	所在地	出土遺構	時期	文献
1	井上山	山口県防府市	包含層	中・中	吉瀬 1979
2	井上山	山口県防府市	A区3号土坑	中・中	吉瀬 1979
3	井上山	山口県防府市	表探	中・中	吉瀬 1979
4	井上山	山口県防府市	表探	中・中	吉瀬 1979
5	天王	山口県熊毛郡熊毛町	A区第3号竪穴住居	中・中	森田 1986
6	天王	山口県熊毛郡熊毛町		中・中	森田 1986
7	岡山	山口県熊毛郡熊毛町	A区第1号竪穴住居	中・中	森田 1986
8	追迫	山口県熊毛郡熊毛町	7号住居	後・前	前田ほか 1988
9	明地	山口県熊毛郡田布施町	土坑SK22	中・後	岩崎ほか 1994
10	相方	広島県芦品郡新市町	表探	後・前	脇坂 1977
11	御領	広島県深安郡神辺町	表探	後期	村上 1940
12	足守川加茂B	岡山県岡山市	包含層	後期	光永ほか 1995
13	加茂政所	岡山県岡山市	竪穴住居44	後・前	柴田ほか 1999
14	加茂政所	岡山県岡山市	袋状土壇47	中・後	柴田ほか 1999
15	上東	岡山県倉敷市	斜面堆積	後・後	柳瀬ほか 1977
16	上東	岡山県倉敷市			小林・米田 1999
17	西吉田北	岡山県津山市	土壇41	後・前	行田ほか 1997
18	用木山	岡山県赤磐郡山陽町	住居址	中・中	神原 1977
19	用木山	岡山県赤磐郡山陽町	住居址	中・後	神原 1977
20	さくら山	岡山県赤磐郡山陽町	包含層	中・後	神原 1977
21	斎富	岡山県赤磐郡山陽町	包含層	後期	下澤ほか 1996
22	下郷原田代	岡山県真庭郡川上村	No.1-竪穴住居	後・後	下澤ほか 1995
23	阿弥大寺	鳥取県倉吉市	.1号住居址	後・前	真田 1981
24	後中尾	鳥取県倉吉市		中・後	倉吉市 1996
25	十善	島根県安来市		中・末～後初	内田 1970
26	御幸寺山	愛媛県松山市	表探		森・大山 1981
27	水満田	愛媛県松山市	SK04	中・後	岡田ほか 1980
28	文京	愛媛県松山市	1次PD05	中・後	長井ほか 1986
29	文京	愛媛県松山市	3次SB06	中・後	長井ほか 1986
30	文京	愛媛県松山市	3次SB08?	中・後	長井ほか 1986
31	文京	愛媛県松山市	3次SB03?	中・後	長井ほか 1986
32	文京	愛媛県松山市	3次SB05?	中・後	長井ほか 1986
33	文京	愛媛県松山市	4次SK01	中・後	長井ほか 1986
34	文京	愛媛県松山市	包含層	中・後	長井ほか 1986
35	祝谷アイリ	愛媛県松山市	SB2	後・前	山之内 1992b
36	祝谷六丁場	愛媛県松山市	包含層	中・中	宮崎編 1991
37	祝谷六丁場	愛媛県松山市	包含層	中・中	宮崎編 1991
38	祝谷六丁場	愛媛県松山市	包含層	中・中	宮崎編 1991
39	祝谷六丁場	愛媛県松山市	包含層	中・後	宮崎編 1991
40	福音小学校構内	愛媛県松山市	SP4522		山之内 1995
41	福音小学校構内	愛媛県松山市	SB15	中・中	山之内 1995
42	樽味四反地	愛媛県松山市			
43	太田下・須川	香川県高松市	包含層		北山編 1995
44	旧練兵場	香川県善通寺市	SD005黒褐層	中・中～後・前	本報告
45	紫雲山	香川県三豊郡	包含層		小林・佐原 1964
46	西長峰	徳島県阿波郡阿波町			高島 1994
47	亀田	兵庫縣龍野市			
48	亀井	大阪府八尾市	SD3041	中・中～後・前	金光 1980
49	亀井	大阪府八尾市			成海 1991

人面付分銅形土製品一覧

Fig.86 人面付分銅形土製品の分布

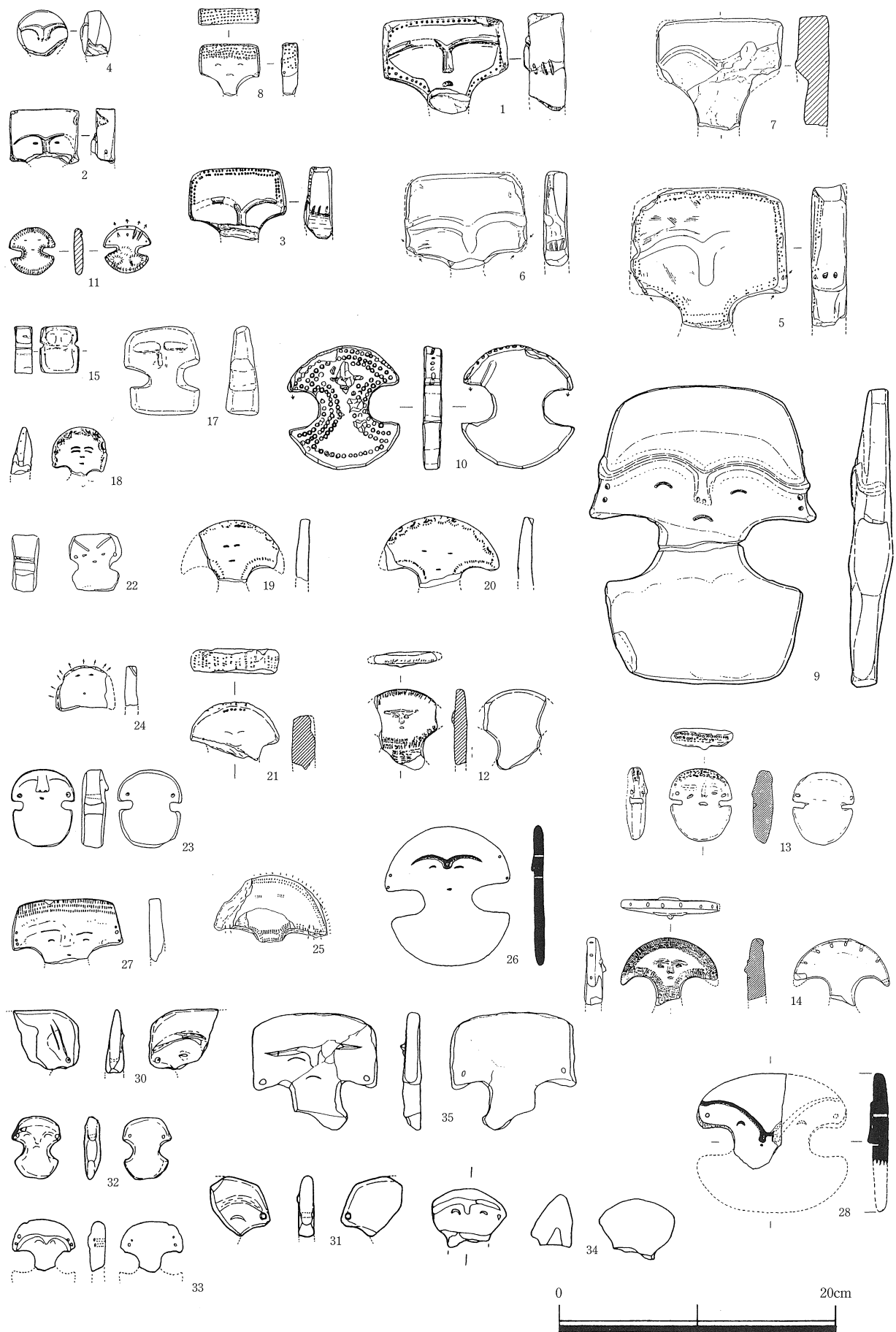


Fig.87 人面付分銅形土製品集成1 (1/4)



Fig.88 人面付分銅形土製品集成2 (1/4)

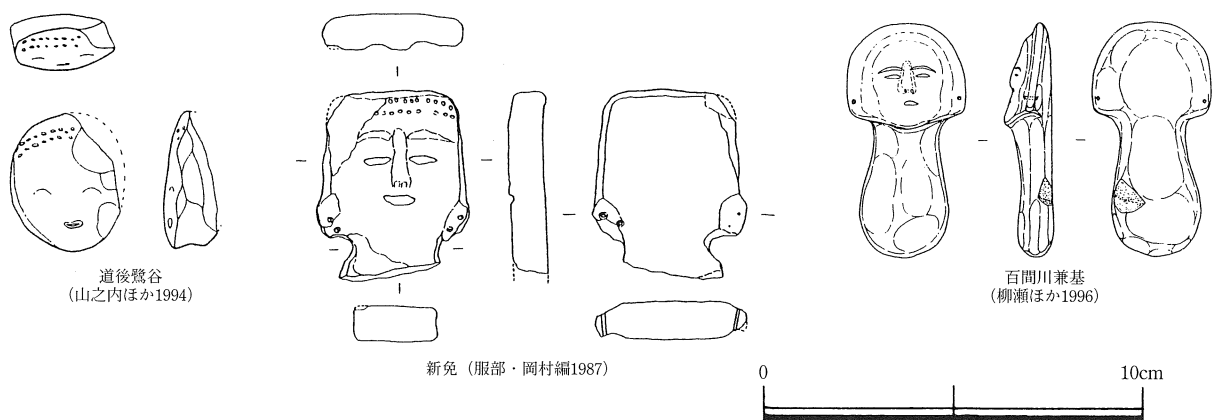


Fig.89 人面付人形土製品 (1/2)

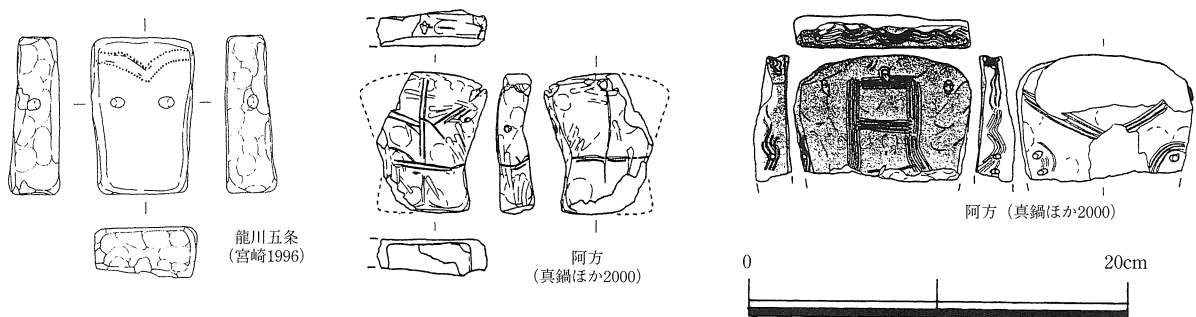


Fig.90 四国地方の初期分銅形土製品 (1/4)

は施されず、表面的に刺突文や直線文による眉などの表現がされたのみであることがこれらの資料から窺える。つまり、人面付分銅形土製品は弥生時代中期中葉に新たに出現する可能性が高くなったということになる。

香川県出土資料の特徴は当遺跡例も含めて3点と数量的に少なく、断定はできないが、強いて言うならば、眉を粘土紐で貼り付けて表現することはなく表情も硬いということになる。この特徴は隣接する愛媛県よりも岡山県の出土資料に近いといえる。ただ、岡山県では眉を粘土紐によって表現する資料も出土しているが、香川県下では現在の所出土していない。人面付分銅形土製品に限っていうならば香川県の独自の地域色は薄く、岡山県つまり吉備型の色彩が色濃いことを指摘しておきたい。

吉備において弥生時代中期中葉以降に人面付分銅形土製品が出現する契機として、邪視文銅鐸や人形土製品との関係からであるとの説がある（柴田 1999）。岡山県出土の資料や香川県詫間町紫雲出山遺跡例では邪視と類似した目の表現が認められる。また、弥生時代の人形土製品の分布も岡山県で後期段階に多くが認められる（角南 2000）。では、愛媛県の柔和な表情は何に由来するものなのだろうか。人面の表情という視点からも吉備型と西部瀬戸内型は異なった系譜にあることが言えそうだ。

#### 【註】

1) 亀田遺跡例は兵庫県教育委員会別府洋二氏・岸本一宏氏の御教示に、上東遺跡例は岡山県古代吉備文化財センターの小林利晴氏・河合忍氏の御教示による。

#### 【引用・参考文献】

- 東 潮 1982「分銅形土製品とその祭祀」『古代の顔』 福岡市立歴史資料館
- 岩崎仁志ほか 1994『明地遺跡』Ⅱ （財） 山口県教育財団・山口県教育委員会
- 内田 才 1970「原始・古代」『安来市誌』 安来市
- 岡田敏彦ほか 1980『一般国道33号低部道路関係埋蔵文化財調査報告』Ⅰ （財）愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 勝部智明・松本岩雄・守岡正司 2000「山陰地方分銅形土製品集成」『古代文化研究』8 島根県古代文化センター
- 金光正裕 1980「亀井遺跡出土の分銅形土製品について」『亀井・城山』 （財）大阪文化財センター
- 川越哲志 1983「安芸・備後の分銅形土製品」『広島大学統合移転地埋蔵文化財発掘調査年報』Ⅱ 広島大学統合移転地埋蔵文化財調査委員会
- 北山健一郎編 1995『太田下・須川遺跡』 香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター
- 倉古市 1996『新編倉古市』1 倉古市
- 神原英朗 1977『用木山遺跡』 山陽町教育委員会
- 小林利晴・米田克彦 1999「(9) 主要地方道筑島高松線改良に伴う発掘調査」『岡山県埋蔵文化財報告』29 岡山県教育委員会
- 小林行雄・佐原 真 1964『紫雲出』 詫間町文化財保護委員会
- 笹川龍一 1995「讃岐の分銅形土製品」『香川考古』4 香川考古刊行会
- 真田廣幸 1981『上米積遺跡群発掘調査報告』Ⅱ 倉古市教育委員会
- 柴田英樹 1999「顔のある分銅形土製品」『加茂政所遺跡』 岡山県教育委員会
- 柴田英樹ほか 1999『加茂政所遺跡』 岡山県教育委員会
- 下澤公明ほか 1995『下郷原田代遺跡』 岡山県教育委員会
- 下澤公明ほか 1996『斎富遺跡』 岡山県教育委員会
- 角南聡一郎 1993「『祭祀土製品』小考」『大阪文化財研究』5 （財）大阪文化財センター
- 角南聡一郎 1995「讃岐地方の分銅形土製品雑考」『考古文集』 近藤義郎古希記念考古文集刊行会
- 角南聡一郎 2000「弥生時代の人形土製品」『祭祀考古学』2 祭祀考古学会
- 高島芳弘 1994『描かれた弥生人のくらし』 徳島県立博物館
- 高橋 護 1987「分銅形土製品」『弥生文化の研究』8 雄山閣
- 田中勝弘 1994『弥生の祈り人』 滋賀県立安土城考古博物館

谷若倫郎 1989「分銅形土製品にみる地域相」『花園史学』10 花園大学史学会

長井千秋ほか 1986『愛媛県史資料編 考古』愛媛県

中村倉司 1994「『弥生人』の風貌」『検証！関東の弥生文化』埼玉県立博物館

成海佳子 1991「亀井遺跡第3次調査」『平成2年度（財）八尾市文化財調査研究会事業報告』（財）八尾市文化財調査研究会

橋本裕行 1997「弥生人の顔」『考古学ジャーナル』416 ニューサイエンス社

服部聡志・岡村勝行編 1987『新免遺跡第11次発掘調査報告書』阪急宝塚線豊中市内連続立体交差遺跡調査団・豊中市教育委員会

前田耕次ほか 1988『追迫遺跡』山口県教育委員会

真鍋昭文ほか 2000『阿方遺跡・矢田八反坪遺跡』（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター

光永真一ほか 1995『足守川加茂B遺跡』岡山県教育委員会

宮崎哲治 1996『龍川五条遺跡』Ⅰ 香川県教育委員会・（財）香川県埋蔵文化財調査センター

宮崎泰好編 1991『祝谷六丁場遺跡』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

村上正名 1940「備後国深安郡御野村御領発見石器時代土偶に就きて」『備後史談』16-12

森 光晴・大山正風 1976『文京遺跡』松山市教育委員会

森田孝一 1986「山口大学埋蔵文化財資料館蔵の分銅形土製品」『RELICS』3 山口大学考古学研究室

柳瀬昭彦ほか 1977『川入・上東』岡山県教育委員会

柳瀬昭彦ほか 1996『百間川兼基遺跡』2 岡山県教育委員会

山之内志郎 1992a「道後城北地域出土の分銅形土製品」『祝谷アイリ遺跡』松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

山之内志郎 1992b『分銅形土製品の謎』松山市考古館

山之内志郎ほか 1994『道後城北遺跡群』Ⅱ 松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

山之内志郎 1995「分銅形土製品」『福音小学校構内遺跡』Ⅱ 松山市教育委員会・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

山磨康平 1999「岡山県下出土の弥生時代人面表現について」『田益田中遺跡』岡山県教育委員会

行田裕美ほか 1997『西吉田北遺跡』津山市教育委員会

吉瀬勝康ほか 1979『井上山』井上山遺跡発掘調査団

脇坂光彦 1977「広島県芦品郡新市町相方出土の分銅形土製品」『古代学研究』85 古代学研究会